

第3版の発刊によせて

本書は幸いにして初版、改訂新版ともたくさんの読者に親しまれ、経食道心エコー (TEE) に携わるすべての医療人にとって必携の書となっている。编者として大きな喜びを抱きながらも日進月歩のTEEをとり巻く環境に即応する必要性を感じていた。そんな矢先に、羊土社編集部から第3版の話がもち上がり、待つてましたとばかりに編集作業に取り組み、ここに無事発刊できたことに、執筆者をはじめ関係各位に大変感謝申し上げる。

さて、第3版に新しく盛り込んだ内容は大きく以下の3つである。1つはASE/SCAによるTEE評価の最新のガイドラインに対応したことである。例えば、従来のガイドラインは20の断面像が標準であったが、基本の11画面とそれを含む発展の28断面像に刷新されたため、本書もそれに基づいた解説となっている。また、僧帽弁や大動脈弁などの解説も最新のASEによる弁膜症のTEE評価ガイドラインを参考にした記述となっていることに注目してほしい。2つめは、構造的疾患 (SHD) インターベンションと銘打った新たなカテーテル治療の大きな波がTEEにも押し寄せて来ていることに対応したことである。新たにSHDの項目を設け、経カテーテル大動脈弁置換や、僧帽弁クリップ術に際しての豊富なTEE画像を一纏めにして解説した。3つめは随所に新しい治療やデバイス、最新のテクノロジーの紹介を器材や造影所見とTEE画像を交えながら盛り込ませていただいたことである。第3世代の埋め込み型人工心臓の紹介がそのよい例である。また、3DTEEをはじめとした超音波装置の技術革新も目覚ましいものがあり、あたかもペンライトで僧帽弁を透かして見えるような断面像 (表紙参照) には驚かされ、文中 (第3章-5) でも話題に挙げた。

この第3版が、本書が今まで果たして来た、TEEの安全で適切な使用法や診断法の普及にさらに貢献し、少しでも多くの心臓血管疾患を抱える方々が救われることを祈念したい。

2020年初夏

编者を代表して
岡本浩嗣